



善正寺だより

〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
TEL:0593-31-1670
FAX:0593-32-0733

掲示板法話

失った機能を嘆かず

残されている機能を活かそう

二〇二〇年のオリンピック、パラリンピック大会が東京で開催されることになりました。招致が決まったIOC(国際オリンピック委員会)総会でプレゼンテーションに登壇した宮城県気仙沼市出身の佐藤真海(まみ)選手。この若いパラリンピック選手の言葉に魅了されました。

この人は一九歳の時、骨肉腫という難病になり、右足を膝下から切断され、絶望の淵に落ち込みました。だが、義肢装具士さんの勧めで陸上競技の世界に入り、日本人女性として初めて義足選手としてアテネ・パラリンピック代表選手に選ばれ、北京、ロンドンの大会にも出場しました。

IOC総会でのプレゼンテーションでは、東日本大震災の被災地の後輩たちの支援活動をした話も織り交ぜ、「ガンで足を失い絶望したが、陸上を始めた。上達するにつれ新たな自信を深めた。何より大切なのは自分が今持っているもので、自分が失ったものではないと気付いた」と身体全体で思いを表現、IOC委員はもとより映像を通じて世界の人々をも感動させました。



笑顔を変えて語りかける彼女の背後には、両親はじめ多くの縁ある人々の支えがあったことだろうと想像されます。それと同時に、今春訪れた社会福祉施設に掲げてあった、次のような先輩の言葉を思い出しました。

「失った機能を嘆かず、残されている機能を活かそう」。

岩手県で光寿苑という老人福祉施設を経営しておられた太田祖電という真宗大谷派僧侶(かつて沢内村の名物村長と言われた)が、入居当初自己の身の上を嘆いてばかりいた老婆の大転換を紹介されました。

「ある日、おばあちゃんの部屋を訪問するとおばあちゃんが泣いていた。それは愁嘆の涙でなく、喜びの涙であった。今まで相次いで家族に先立たれた身の上を嘆き、不自由な右手、右足のことばかり悔やんでいた人が『まだ私にも動く手があった。何とか合わせられる手があった。み仏様が私にこの喜びを教えてくださいました』と左手を不自由な右手に重ねて深々と合掌された。私はこの老婆の姿に『ようこそ気づいてくださいました』と合掌せずにおれませんでした」という

☆行事ご案内☆

◇10月の門信徒会例会 10月20日(日)夜7時半

① 報恩講に向けて、②宗祖讃仰作法(音楽法要)の解説
報恩講(11月2日、3日)の打ち合わせと今後の予定
※お磨き10月26日(土)4時(行事さん)

◇キッズサンガ10月5日(土)午後4時より『集い』、
新しいお友達もぜひどうぞ。毎日5時の鐘つき、年中無休
善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索。トップページの左
欄「善正寺だより」をクリック、ファイルを開くと1年分の寺報が見
られます。毎日更新の「住職と坊守のつれづれ日記」が大好評。

開設5年2か月で12万1千訪問、一日平均100程、コメント大歓迎、
◇『一縁会テレホン法話』059・354・1454へ
お電話を！5人の僧侶が週替わりで担当、3分間で法話が聞けます

三重組コーラス 10/2(水)西勝寺様での練習、
※親鸞聖人750回大遠忌法要が平成28年5月15日に決定！
※来年4月19日午後『初参式』を受ける赤ちゃん、幼児を大募集

◇百五銀行阿倉川支店ロビー展「第3回善正寺門信徒展」、
10月1日より31日まで1か月間開催写真、絵、書、陶芸他

◇報恩講予定案内
11月2日(土)※、午前11時～12時お非時(食事接待)
午後1時半法話、夜7時 音楽法要、琴演奏、ご法話など
3日(日)午前10時法話
講師 藤 大慶先生(京都府るんびに学園理事長)



逸話です。
福祉施設に掲げられた標語は、きつと太田師から多くの関係者に広がったのであろうと想像されます。
光るような佐藤選手の言葉もまた、遠く多くの先人たちからバトンタッチされ、大慈悲心に裏打ちされた言葉です。真実に導かれた言葉の力は、闇を光に大転換させるエネルギーを生み出すのです。



写真アラカルト

み仏様に向かって合掌する子供たち。今月も子供たちと共に！

坊守スケッチ

心のリハビリ



ある日突然思わぬ病気に罹り、リハビリに励む方も多い。これから紹介する人は、2年程前自宅で軽い脳梗塞になり、緊急入院。早めの治療のおかげで障害も軽く済んだ。歩く、話す、字を書く、食べる稽古など、医師の親切な指導を受けて懸命にリハビリに励んだ。しかし自分の納得できる完全復帰にまでは至らなかった。そこで週2回デイサービスに通い始めた。一緒に指導を受けている人の中には、先の見通しが立たず、やけになり落ち込む人もいるとか。回復状態は人様々だが、意思と努力の結果次第。ある日リハビリ室で真っ先に見つけた壁の詩に感動して、私の所にもってこられた。

以前207号の寺報でも紹介したが、再度紹介しよう。

『当たり前』 井村和清 作

当たり前 こんな素晴らしいことを皆は何故喜ばないのでしょ
お父さんがいる お母さんがいる
手が二本あって 足が二本ある
行きたい所へ 自分で歩いて行ける
手を伸ばせば 何でも取れる
音が聞こえて 声が出る
こんな幸せはあるでしょうか
しかし誰もそれを喜ばない
当たり前だと笑っています
食事が食べられる 夜になるとちゃんと眠れ
そして又朝が来る

空気を胸いっぱい吸える
笑える 泣ける 叫ぶことができる
走り回れる みんな当たり前のこと
こんな素晴らしいことを みんなは決して喜ばない
その有難さを知っているのは
それを失くした人だけ

井村氏は将来を嘱望された青年医師。右膝に悪性腫瘍が見つかり、右足を切断。その後転移してわずか32歳で死去。妻と二人の幼子を残して逝った井村氏だからこそ書けた詩である。

先日この人がまた別の紙を持って来訪。「これから寺報に『いいもの紹介』というコーナーを作ってください。私が長年お説教で聞いたことや新聞で書き留めた歌等がノートにぎっしり。ぜひ私の『心のリハビリ』と思っ

て皆さんに紹介したい」という嬉しい申し出。早速今月号から実践開始!

「歳をとるということは失うことばかり。先ず健康を失くす。仕事を失くす。社会的な地位を失くす。友達を亡くす。家族を亡くす。本当に寂しく孤独に耐えなければならぬ。しかし長年聴聞で鍛えた心は、少しのことではへこたれない。歳をとることは悪いことばかりでもない。今までの経験と智慧で、たとえ苦しいことが起ころうとも平常心で生き抜くことができる。この感謝の心を後の人にも伝えたい」

さすが元総代さんのお言葉! 病気になるっても、老いても、逞しく立ち上がる姿。施設先でも、その人を囲んで仏法の話になるとか? 人生のお手本として、ぜひ見習いたいと思います。

☆寄稿

四日市市川崎孝一

☆樹ちゃん 力感充ちた

「這い這い」で

亮ちゃんを追う 御堂狭しと

☆明けや遣らぬ 杜のぐるりも

秋気配 法師蟬いま

☆釈迦牟尼の 「十大弟子」に 後鳴きに入る

☆釈迦牟尼の 「十大弟子」に 迎えられ

パラミタミュージアムに 吟行す

Eさんのいいもの紹介

元門徒総代の伊崎栄一氏が、お寺や旅行先で聞いた心に残る言葉を順次紹介して下さいます。長年ノートに書きためた俳句、短歌、新聞記事等。私達に感動のお裾分け。以前は掲示板の言葉を担当。最近ではデイサービス先でE

さんを囲んで仏法の話に花が咲くとか? 若い頃から聴聞で培われたお念

仏の心が、皆さんにも伝わることでしよう。新コーナーにご期待下さい。人生の大先輩のお導きに感謝します。

☆恍惚となりしに 念仏忘れざる

夫(つま) 拝みつつ 看取りているも

(福井県 渡辺まさの作)

※とかく悲惨な老々介護も、お念仏の喜びに包まれた老夫婦の穏やかな日常が目に見えよう。私達夫婦も

こんな老後を迎えたいですね。(坊守)

ホットニュース

☆百五銀行阿倉川支店で十月一か月

間「第三回善正寺門信徒展」開催中!

写真、絵、書、陶芸、刺繍など、今年

も皆さんの力作や子供の習字など展示。買ひ物のついでに阿倉川駅前支店

にぜひ一度お立ち寄り下さい。

☆来年(平成26年)4月19日(土)

午後初参式を受ける赤ちゃん、幼児を

大募集! 三全仏婦主催。会費千円。

【平成25年度今後の善正寺行事予定】

※11月2日(土)午後・夜・3日(日)

午前「報恩講」講師藤大慶師(京都府)

※11月23日(土)午前8時秋勧進

※12月7日(土)夜「お内仏報恩講」

※12月31日夜11時45分除夜の鐘

◇その他、毎月第3日曜日夜7時半より

「門信徒会例会」

☆善正寺のホームページ「三重 善正

寺」で検索可。毎日更新の「住職と坊守

のつれづれ日記」が好評。開設5年2か

月で12万1千訪問。毎日平均100

訪問。悩み相談、コメント大歓迎。

☆編集子より ☆

「善正寺だより」二三八号をお届けしま

す。◇パソコンの不調に続く買い替えで

難渋の末、漸く今号が完成。視力、知力

の低下は老化現象を自覚せよというこ

とでしょうか? ◇でも若い力の萌芽に

惚れ惚れします。お互い年齢相応に「失

った機能を嘆かず、残されている機能

を活かそう」との精神で使命を見つけて

励みたいものです。◇灯火親しむ秋、心

に響く真実の言葉に遇う季節。合掌。

今年も小杉町三田体主催の追悼法要に關係各位のご尽力で無事お勤めすることができました。皆様のご
報謝に厚く御礼申し上げます。他所の人から「小杉は羨
しいなあ、七十年間休まず年間物故者と戦没者を偲
ぶ会が続いているなんて、それも地域一丸となってお勤
めできるなんて」という誉の言葉頂戴しました。豊かな
暮らしが当たり前前の時代に、平和で幸せな生活の基
礎を築いて下さったご先祖の苦勞も、戦後生まれの人々
は知りません。一年に一度立ち止まって、先輩方のご恩に
気付くことは尊い仏縁だと言えるでしょう。かつて二〇〇
軒だった在所住民が今では六〇〇軒以上、絆がもろく
壊れていく時代に新住民も一緒になす横の絆、縦の絆
を固くつないでいくことは、並々ならぬ努力と協力が必要
です。高齢者が三〇〇〇万人以上、独居老人や介護が必
要な人がますます増加します。こんな時代だからこそ
ご近所の声掛け助け合い、結束が必要です。追悼法
要を勤める意義もそこにあります。これからも伝統行
事として守り伝えたいものです。十月は一ヶ月間、百五銀行
阿倉川支店ロビーで第三回「善正寺門徒展」が開催
されます。幅広い年齢層の作品が展示されます。開
かれたお寺を目指した活動の二環です。ぜひ一度足
をお運び下さい。報恩講もあとも一ヶ月、気忙しいか
募りもすが、深まりゆく秋を堪能したいものです。
十一月二三日の報恩講はご参詣お待ち申し上げます。
平成二十五年十月 合掌 善正寺方守拝